



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	MACROEVOLUTION AND MACROECOLOGY OF THE MESOZOIC DINOSAUR BODY SIZE : INVESTIGATING THE INFLUENCE OF PALEOENVIRONMENTAL CHANGE
Author(s)	清水, 洲平
Description	この博士論文の全文は利用可能日以降に公開されます。
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(理学)
Dissertation Number	甲第16753号
Issue Date	2026-03-25
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k16753
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99598
Type	doctoral thesis
File Information	Shuhei_Shimizu_review.pdf, 審査の要旨 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/



学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称 博士（理 学） 氏 名 清 水 洲 平

審査担当者	主査	教 授	小 林 快 次
	副査	教 授	山 田 敏 弘
	副査	准教授	伊 庭 靖 弘

学 位 論 文 題 名

MACROEVOLUTION AND MACROECOLOGY OF THE MESOZOIC DINOSAUR BODY SIZE:
INVESTIGATING THE INFLUENCE OF PALEOENVIRONMENTAL CHANGE
(中生代恐竜類における体サイズのマクロ進化とマクロ生態:古環境変動による影響の解明)

博士学位論文審査等の結果について（報告）

生物の体サイズは、生態を知るための鍵となる変数である。近年、恐竜の体サイズを使ったマクロ進化の研究は世界中で行われているが、日本での研究は遅れている。著者は、世界最大の恐竜体サイズデータセットを構築し、マクロ進化のみではなく、マクロ生態の視点も先駆的に導入し、恐竜の体サイズの変動を時間と空間という二つの側面から探索した。その結果、恐竜の代謝機能には系統ごとの可塑性があり、特に白亜紀の複数の系統が寒冷地で大型化する内温動物的な適応戦略へ収斂していたこと、恐竜の初期進化において、高緯度環境での大型化がその後の繁栄の鍵となったことといった大きな謎の解明に貢献した。この研究は、日本の古脊椎動物研究を世界をリードできるレベルに押し上げるものである。

よって著者は、北海道大学博士（理学）の学位を授与される資格あるものと認める。